

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-2008	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:①「乳幼児期のRSウイルス感染と小児喘鳴性疾患の関連に関する疫学研究(2020-1018)」対象者とその保護者 約3,000組、②①を除く三世代コホート調査に参加された児とその保護者 約27,000組 試料:なし 情報:①入院歴調査票、①②調査票情報、産科カルテ転記情報、母子健康手帳情報、ゲノム情報(SNPアレイ情報)		
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機			分担 研究機関	-		
研究題目	網羅的な小児感染症の重症化因子の解明と予後に関連する因子の解析			研究期間	2021年11月～2024年3月		
実施責任者	上野 史彦	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	助教	
研究目的と意義	日本における、2歳未満の乳幼児について感染症で入院したお子さんの重症化に関連する因子を明らかにします。また、重症化した感染症の経験のあるお子さんが小児期にアトピー性皮膚炎や喘鳴、発達障害と関連があるか、体質(遺伝子)を含め明らかにすることを目的としています。						
研究計画概要	本研究対象者として三世代コホート調査に参加しているお子さん約30,000人とその保護者約30,000人を対象とします。お子さんは入院歴のある方(約3,000人)と比較対照の方(約27,000人)です。 三世代コホート調査の参加者のうち、研究課題名「乳幼児期のRSウイルス感染と小児喘鳴性疾患の関連に関する疫学研究(2020-1018)」にて、2歳までの入院の有無に関する調査にご回答いただいた方について、医療機関に対し入院時のカルテ情報から、感染症による入院かどうかの情報を収集します。 2歳までに入院したことがないお子さんについては、追加の調査は行いませんが、比較対照のグループとしてこれまで蓄積されたデータを解析いたします。その後、感染症の重症化に関連する因子や、喘鳴との関連について解析を行います。対象とする感染症は網羅的に解析します。						
期待される成果	小児における感染症全般の重症化の要因と、重症感染症の喘鳴・アトピー性皮膚炎・発達障害に対する影響に関する知見を得ることが期待される。 また、本研究により得られたデータは、東北メディカル・メガバンク計画の一部として幅広く研究者コミュニティにデータシェアリングし、多角的な統合解析により医学の発展に寄与することが期待されます。						
これまでの倫理 審査等の経過	2021年11月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認						
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	研究は、人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針を遵守するほか、ToMMoが定めるセキュリティポリシーに従い、ToMMoスパコン上にて解析が実施されます。						
その他特記事項	科学研究費助成事業						
※公開日	令和3年12月7日						